

2024（令和6）年度事業報告書
（令和6年4月1日から令和7年3月31日まで）

I 主要な会議

1 理事会

開催日	議案等	備考
令和6年4月28日	評議員会の開催の件	書面表決
令和6年5月27日	① 2023（令和5）年度事業報告及び決算の件 ② 定時評議員会の開催の件 〈報告事項〉 ③ 2023（令和5）年度資金運用の経過の件	通常理事会 （第1回）
令和6年6月27日	① 理事長の選任の件 ② 常務理事の選任の件	臨時理事会
令和6年10月17日	① 2024（令和6）年度収支予算の変更の件 〈報告事項〉 ① 2024（令和6）年度事業報告（上半期）の件 ② 2024（令和6）年度資金運用の経過の件	通常理事会 （第2回）
令和7年2月17日	① 2025（令和7）年度事業計画及び収支予算の件 ② 2025（令和7）年度資金運用の執行方針及び計画の件 ③ 臨時評議員会開催の件	通常理事会 （第3回）

2 評議員会

開催日	議案等	備考
令和6年4月1日	① 理事の選任の件 ② 評議員の選任の件	書面表決
令和6年5月1日	① 理事の選任の件 ② 評議員の選任の件	書面表決
令和6年6月27日	① 2023（令和5）年度計算書類等の件 ② 役員の選任の件 ③ 評議員の選任の件 〈報告事項〉 ① 2023（令和5）年度事業報告書の内容の件 ② 2023（令和5）年度資金運用の経過の件	定時評議員会
令和7年3月3日	① 2024（令和6）年度収支予算の変更の件 ② 2025（令和7）年度事業計画及び収支予算の件 ③ 2025（令和7）年度資金運用の執行方針及び計画の件	臨時評議員会

Ⅱ 事業報告

【公益目的事業会計】

1 屋久島環境文化村構想推進事業

(1) 環境学習事業

① 自然・文化体験事業

ア 自然・文化体験セミナー

広く全国から参加者を募り、屋久島のフィールドを活用した自然・文化体験学習プログラムを提供するとともに町内外の方々との交流等を行った。

名称			
	内容	開催日	参加者数
まるごと屋久島研修講座～里編～			
	島内一周，バスレクチャー，西部林道，大川の滝の自然観察など	令和6年4月14日	16人
まるごと屋久島研修講座～森編～			
	ヤクスギランド散策	令和6年4月20日	21人
屋久島Jr. レンジャーキャンプ			
	生物多様性レクチャー，野外炊飯，昆虫灯火採集，イカダづくり，川下りなど	令和6年8月2日～4日	9人
SDGs企業研修（モデル実施）			
	西部林道観察，製材所見学（循環型林業），里めぐり（永田），基調講演（九州地方環境事務所長）など	令和6年10月9日～10日	13人
	武田産業見学，里めぐり（春牧），水力発電所見学，うみがめ館見学，環境教育実践講座（日本環境教育フォーラム）など	令和7年1月17日～19日	17人
小さなコケの世界をのぞいて，知ろう			
	ヤクスギランドでのコケ観察，7,000年の森でのコケ採取，コケクラフトなど	令和6年10月27日	6人
12月セミナー			
	トレッキング入門 ～山とつながりを感じる@安房前岳	令和6年12月1日	7人
3月セミナー			
	おいしく学ぶヤクシカ	令和7年3月2日	13人

イ ふるさとセミナー

町内在住者を対象に、ふるさとの新たな一面を再発見し、屋久島の自然環境や文化に対する意識の醸成を図るため、屋久島の身近な自然を素材にした体験型研修を行った。

名称	内容	開催日	参加者数
<研修センターオープンデー> 研修センターを活動PRの一環として、親子で楽しめる科学実験等の催しを行った。			
	きらきらスノードーム，世界に一つだけのポストカード，目かくしトレール 貝殻キャンドル，火起こしチャレンジ	令和6年6月16日	135人
<自然に親しむ集い> 町内在住者を対象に、屋久島の身近な自然のすばらしさを学ぶため、環境省・屋久島町と共催で、自然観察活動や自然体験活動を行った。			
	第1回 めざせ！水辺の生き物マスター (春田浜・イテゴ川) 【環境省】	令和6年10月5日	15人
	第2回 アサギマダラマーキング会 (原・小島地区) 【財団】	令和6年11月16日	11人
	第3回 屋久島コケ入門～コケの世界へようこそ【屋久島町】	令和6年12月7日	8人
<幼児環境教育推進事業> 幼少期における自然とのふれあいを通じ、環境意識の基盤形成を図るため、町内未就学児とその保護者を対象に野外体験活動を行った。			
	第1回 秋の森でおさんぽの会	令和6年10月6日	31人
	第2回 親子でチャレンジ！焚火でおやつクッキング	令和7年2月23日	26人
<子どもエコ隊活動事業> 子どもの頃からの自然環境に対する意識を醸成し屋久島の未来を担う人材の育成を図るため、町内小中学生を対象に体験的な環境学習を行う。 「SDGsから屋久島の持続可能な暮らしをかんがえよう！」のテーマで、計2回実施した。			
	第1回 屋久島をあそび，屋久島を感じる2日間！～自然にも，人にも，やさしい暮らしを考える！	令和6年11月3日～4日	18人
	第2回 屋久島をあそび，屋久島を感じる2日間！～自然にも，人にも，やさしい暮らしを考える！	令和7年2月1日～2日	20人
Forestday ～「森と人がつながっている」を実感する1日in 7000年の森			
	「森と人との関わり」をテーマに様々な団体と協働し，森と人が織りなす持続可能な「共生と循環」の文化を島民に広く普及する。	令和7年2月16日	76人

ウ インターンシップ

インストラクターに必要な資質や技能を高めるため、9月6日から9月19日までの2週間、岩手県立大学3年生1人に屋久島環境文化研修センターで職場体験を行った。

② 受入事業

人と自然との関わりを理解し、環境保全への意識を高めるため、財団が作成した研修プログラムを活用する宿泊研修、1日研修及び短時間研修を行った。

また、宿泊研修を実施する団体に限り、より効果的な学習の場となるよう、希望する団体には、オンラインでの事前研修を行った。

さらに、鹿児島大学教育センターとの教育協定に基づき、同大共通教育課程で実施する集中講座「屋久島の環境文化」において、環境文化に対する学生の理解を深めるため、屋久島をフィールドとする支援活動を実施した。

区分	令和5年度		令和6年度			
	団体数	参加者数	団体数	前年同期比	参加者数	前年同期比
宿泊研修	48団体	3,040人	48団体	100.0%	3,114人	102.4%
1日研修	33団体	836人	25団体	75.8%	414人	49.5%
短時間研修	7団体	82人	4団体	57.1%	47人	57.3%
合計	88団体	3,958人	77団体	87.5%	3,575人	90.3%

③ 屋久島高校環境学習・交流支援

屋久島高等学校の生徒を対象に、屋久島・口永良部島の自然、歴史、文化について理解を深めるための環境学習に関する研修、他の地域で環境保全活動を行っている団体等との交流に対して支援を行った。

名称	内容	開催日	参加者数
宿泊研修			
	実地研修（生態系と生物学習）	令和6年6月13日～14日	13人
	実地研修（地学）	令和6年11月14日～15日	12人
	実地研修（地歴・公民）	令和7年1月22日～23日	11人

④ 出張屋久島講座

町内の児童・生徒等に、屋久島の環境学習を行った。

名称	内容	開催日	参加者数
永田小学校			
	（5・6年生）海洋ゴミについて	令和6年5月24日	5人
縄文の宿まんてん			
	五感で感じる！世界遺産屋久島の魅力	令和6年5月3日	12人
	五感で感じる！世界遺産屋久島の魅力	令和6年7月13日	7人
	五感で感じる！世界遺産屋久島の魅力	令和6年9月14日	11人
中央中学校			
	（2年生）海洋ゴミについて	令和6年11月28日	63人

安房小学校			
	(特別支援学級) 草木染め	令和6年12月11日	32人
合計		6回実施	130人

⑤ ユネスコスクール連携推進事業

町教育委員会等と連携して「持続可能な開発のための教育」(E S D)に取り組む町内教育機関に、町から委嘱を受けたE S Dアドバイザーとして、積極的にユネスコスクール登録を支援するとともに、S D G sへの理解の促進を図るため、町内の学校等へカードゲームを通じた学習の機会を提供した。

教育機関名			
	内容	開催日	参加者数
安房保育園			
	(年少) 野いちご狩り&森のおさんぽ	令和6年5月31日	14人
	(年中) 海の生き物観察&海あそび	令和6年7月17日	21人
	(年長) お茶摘み体験&海岸探検	令和6年9月25日	21人
	(年中・年長) 島内1周	令和6年11月6日	40人
	(全) ヤクスギランド散策	令和7年1月29日	45人
	(全) 年間ふりかえり・発表会	令和7年2月12日	70人
安房小学校			
	(1年生) 秋探しネイチャーゲーム・秋のクラフト	令和6年11月8日	43人

⑥ 屋久島研究講座

町内在住者を対象に、屋久島の自然や文化に関する理解の促進・普及を図り、その未来を担っていく人材を育成するため、屋久島等をフィールドとして調査・研究している研究者や専門家を講師とする講座を開講した。

演題				
	講師	開催日	開催場所	参加者数
モニタリング1000 サンゴ礁部門 大隅諸島 20年の報告				
	屋久島海洋生物研究会 代表 松本 毅	令和 6 年 9 月10日	屋久島環境文化村センター (レクチャー室)	31人
私の考える環境文化～自然との共生とネイチャーポジティブ～				
	環境省九州地方環境事務所長 則久 雅司	令和 6 年10月10日	屋久島環境文化村センター (レクチャー室)	31人
二刀流で生きるサツキの生存戦略				
	Botanical Academy 代表 崎尾 均	令和 6 年11月29日	屋久島環境文化村センター (レクチャー室)	31人

「屋久島山岳部の管理に向けた挑戦：山のトイレと登山道保全の新たな戦略」			
屋久島学ソサエティ	令和6年12月14日	屋久島町役場 (フォーラム棟)	20人
「屋久島で学びたいこと・学んでほしいこと」			
屋久島学ソサエティ	令和6年12月15日	屋久島町役場 (フォーラム棟)	12人
町民向け講演会「ぼくらの西部の自然 ～西部地域の未来を考える～」			
環境省屋久島自然保護 官事務所	令和6年12月16日	屋久島町役場 (フォーラム棟)	22人

(2) 環境形成

① 環境保全活動支援事業

ア 山岳部利用対策事業

屋久島の山岳部の環境保全について啓発を図るため、縄文杉デッキにおける登山者へのマナー指導（4月27日、8月13日）や、関係機関とともに荒川登山道の安全点検（7月30日）を行った。下半期においては、登山者向けのマナーガイドブック等の作成・配布を行った。

イ エコツーリズム支援事業

屋久島におけるエコツーリズムの取組を推進するため、屋久島町エコツーリズム推進協議会へ参画及び支援を行うとともに下記セミナー等を開催した。

その他、自然体験活動指導者（NEAL）養成団体として、広く町内外から希望者を募り自然体験活動指導者養成講習会を行った。

区分	開催日	参加者数
野外活動指導者養成セミナー	令和6年6月6日～9日	3人
インタプリタートレーニング講座	令和6年12月12日～15日	2人
日本赤十字救急法基礎・救急員養成講習	令和7年3月21日	7人
屋久島ガイドセミナー	令和7年2月25日～27日	28人

ウ 研究調査活動奨励事業

屋久島の生物多様性や歴史・文化をテーマに調査・研究する研究者や環境保全の意識向上のための啓発活動等に取り組んでいる団体に対し、支援・助成を行った。

団体等名		
	調査研究等内容	調査研究期間
東邦大学理学部生命圏環境科学科 博士 山崎 大志		
	屋久島に固有な海産巻貝の進化史に関する研究：ホリカワタマキビを例とした検証	令和4年度～ 令和6年度

北海道大学大学院地球環境科学研究院 教授 相場 慎一郎		
	屋久島の異なる標高にある原生的森林の長期動態	令和5年度～ 令和6年度
長崎総合科学大学 准教授 持田 浩治		
	自動音声解析による屋久島内のヒヨドリの動態解明	令和5年度～ 令和6年度
口永良部島哺乳類研究グループ 准教授 藤田 志歩		
	口永良部島における生物多様性保全に向けた哺乳類層の 基盤データ補正	令和5年度～ 令和7年度
京都産業大学生命科学部 准教授 高橋 純一		
	屋久島におけるニホンミツバチの保全とハチミツの品質評価	令和5年度～ 令和7年度
東京農業大学農学部昆虫学研究室 教授 小島 弘昭		
	新種の宝庫！屋久島のゾウムシ類の多様性解明	令和5年度～ 令和7年度
岩手県立博物館 館長 高橋 廣至		
	屋久島における湿性草原棲絶滅危惧鳥類の越冬状況の把握	令和6年度
文化庁文化財二課 調査員 寺田 仁志		
	屋久島里地・里山の植生と植物文化	令和6年度～ 令和8年度

エ うみがめ保護対策事業

うみがめの産卵・ふ化場所である海浜の環境を保全するため、遮光林の維持管理や保護柵の設置、海浜の清掃活動を行った。

- ・ うみがめ保護遮光林維持管理

委託先	委託期間	実施場所
永田区 一湊を語る会	令和6年7月19日～ 令和7年2月28日	永田（いなか浜） 一湊（一ツ浜，二ツ浜）

- ・ 保護柵の設置及び海浜の清掃活動

主催団体	実施日	実施場所
屋久島町エコツーリズム推進協議会	令和6年4月25日 令和6年9月26日	永田（いなか浜） 永田（いなか浜）

- ・ マリンワーカー事業

環境省から委託を受け、屋久島の主要な海岸において、地元住民及びボランティア等と連携して美化作業を行い、優れた海岸景観の保持及びウミガメ繁殖環境の保全を行った。

実施団体	実施日	実施場所
永久保区	令和6年7月21日	田代海岸
栗生区	令和6年9月29日	塚崎海岸（第1回）
永田区	令和6年11月24日	永田浜（前浜，いなか浜）
栗生区	令和7年2月1日	塚崎海岸（第2回）

② 屋久島動植物調査等事業

自然保護の普及活動を推進するため、環境学習や自然観察の資料として活用している財団発行のガイドブック「地質ガイド」の増刷（2,000冊）を行った。また、令和7年度の改訂に向けて「植物ガイド」の掲載写真収集や説明文等の確認作業を行った。

(3) 交流推進事業

① 留学生ホームステイ受入事業

屋久島町内在住者と外国人の異文化交流を図るため、ホームステイを行いながら、屋久島の文化や暮らしの体験、町内在住者と交流活動等を実施していたが、ホームステイ受入の体制や家庭の調整に課題があり、令和6年度の事業再開も困難となったことから、受入れの拠点を研修センターとして、留学生に里めぐりや地域行事への参加等、地域の方々との触れ合いを通じた国際交流活動として実施する方向で検討を行った。今後は、県内大学との調整を行い事業化を目指す。

② 屋久島ファンクラブの加入促進

ファンクラブの認知度向上や加入の促進を図るため、町内の関係機関や事業所等を訪問し、財団の活動やファンクラブ等の紹介を行った。また、村センターや研修センターの利用者に対しては、やくしまアプリの導入やファンクラブの特典を案内することで、加入の促進を図った。

屋久島ファンクラブ会員数	636人
うち令和6年度新規加入者	84人

③ 財団情報誌の発行

ア 財団会報「屋久島通信」（A4版，8ページ）の発行（3,000部／号）

全国の屋久島ファンクラブ会員及び関係機関に対して、屋久島の情報を提供した。

号数	発行時期	主な内容
第87号	令和6年7月	屋久島でのウミガメ保護と観光の課題
第88号	令和6年11月	ヤクシカ肉の品質評価に関する研究
第89号	令和7年3月	ハイビスカスシャンプーを作る

イ 財団機関紙「まるりん通信」の発行（6,500部／月）

隔月１回町内の全戸に配布し、財団の活動状況を紹介するとともに、中核施設への来館、イベントへの参加を呼びかける情報発信を行った。また、バックナンバーも含め、ホームページにも掲載している。

ウ 「やくしまアプリ」等を活用した上記情報誌のデジタル配信を行った。

④ 研究者ネットワークとの連携

屋久島の住民と研究者が共に学び合う組織である「屋久島学ソサエティ」や「鹿児島大学」と連携し、研究者や専門家による屋久島における調査・研究成果の共有と地元への還元を共同で行った。

⑤ 島内関係団体ネットワーク形成

島内の行政機関や関係団体で構成される会議への参画をはじめ、パークボランティア等の各種団体との共同活動へ積極的に参加し連携の強化に努めた。

⑥ 財団ホームページ等の管理運用及び情報発信

財団ホームページ及び「やくしまアプリ」の適正な管理運用を行うとともに、SNS（FacebookやInstagram等）を活用し、日々新しい屋久島や財団の情報発信に努めた。

⑦ 教育機関との連携

教職員及び生徒の地域貢献等体験研修を積極的に受け入れ、財団の認知度を高めるとともに、郷土の良さや環境等へ視野を広げる取り組みを行った。

(4) 屋久島地域づくり支援

① 里のエコツアー推進事業

ア 屋久島里めぐり推進協議会の運営等

協議会運営の事務局として、里めぐり参加者の受付及び集落との調整のほか、集落の語り部のスキルアップ研修等の人材育成を行った。

(参考) 屋久島里めぐり推進協議会

- ・ 会員
屋久島町、財団、集落（永田、吉田、一湊、宮之浦、春牧、平内、中間、本村、安房、楠川）
- ・ 目的
屋久島の山岳部へ集中する観光のあり方を見直し、屋久島の里地へ観光の幅を広げ、新たな観光と地域振興の仕組みづくりを進める。
- ・ 屋久島里めぐり参加者数（受入回数）

集落名	令和４年度		令和５年度		令和６年度	
	参加者数	回 数	参加者数	回 数	参加者数	回 数
吉 田	51人	13回	5 人	5 回	4 人	4 回
宮之浦	64人	28回	86人	25回	149人	28回
春 牧	97人	19回	99人	16回	76人	11回
平 内	12人	5 回	7 人	5 回	58人	6 回
中 間	21人	4 回	38人	10回	44人	7 回

永 田	0 人	0 回	31人	10回	54人	9 回
一 湊	115人	20回	42人	15回	134人	19回
本 村	18人	5 回	11人	6 回	11人	3 回
安 房	33人	10回	31人	8 回	26人	8 回
楠 川	42人	7 回	26人	10回	42人	11回
合計	453人	111回	376人	110回	598人	106回

イ 里めぐりの推進

里めぐり未実施集落の地域資源の開拓・調査及び実施に向けた支援を行うことにより里めぐり参加集落の拡大を図るとともに、旅行エージェント等向けのモニターツアーの実施及び情報誌等を活用した情報発信等により集客を図った。

ウ 奄美まち歩き団体等との連携

奄美地域のまち歩き団体等との交流促進を図り、相乗効果による地域の活性化と環境文化の継承を図ることを目的に、情報共有等の連携を図った。

エ 屋久島の名所・旧跡等説明看板の利活用及び維持管理

屋久島の里の魅力を発信するため、これまでに設置してきた名所・旧跡等説明看板の利活用を図るとともに、既設看板の維持管理を行った。

② 地域づくり支援事業

屋久島の環境文化に関わる地域づくりに資する各種イベント等の開催や伝統芸能、文化芸術活動に対し支援を行った。

団体等名	活動内容
屋久島選抜チーム後援会	全国離島交流中学生野球大会 屋久島選抜チーム支援事業

③ 屋久島の未来と環境文化を考える新たな協働事業

ア やくしまじかん懇談会開催

これまで継続してきた屋久島の目指すべき基本方向及び5地域連携の目指すべき基本方向を議論し、有識者懇談会の開催に向け準備を進めた。

イ 自然遺産地域先進事例の分類整理等を通じた5地域間連携の推進

1) 5地域先進的事例等調査・整理等

令和6年度調査により収集した世界自然遺産の5地域における保全活用の取組事例を基に、5地域会議としての課題に即して先進性が高いと考えるテーマを抽出・整理し、保護と暮らしを両立させるモデルづくりについて検討を行った。また、有識者による環境文化研究会を開催し、自然保護に係る懸念の整理や理念の深化を進め、5地域会議として、大阪・関西万博で世界へ発信するメッセージの素材とした。

2) SDGs企業研修モデル作成

SDGsの企業研修モデル（カリキュラム、現場体験等）の検討を専門家WG体制（当該専門家、環境省等）の下、10月と1月に屋久島で実施した。インストラクターが企画した企業研修モデルプラン（案）の現地検討に加え、公益財団法人日本環境教育フォーラム（JEFF）講師派遣事業を活用した環境教育実践講座を実施し、ESDの視点で分析することで各プログラムのブラッシュアップを図った。

ウ 屋久島環境文化財団活動支援

1) やくしまアプリへの写真提供

屋久島の自然や人々の暮らしを42年に亘り撮り続けてきた日下田紀三氏からの寄贈写真（6,500ショット）を用いて、屋久島の歴史を振り返り、その価値や時代の変革を伝える動画として集落ごとに「在りし日の里の風景」を作成し、やくしまアプリで定期的に公開した。

2) 新やくしまの100人候補者案の作成

世界自然遺産5地域会議や屋久島SDGs企業研修、奄美地域との連携など、各般の事業をさらに拡大発展させるために、新たな人材発掘を行うことを目的に現時点での候補者案を作成した。

④ 自然と社会の共生と未来に残すべき人類の遺産共創事業

世界自然遺産5地域の連携の強化、各地域の課題の共有及び環境文化の理念の提示並びに政府等への政策提言等を目指すとともに、2025年日本国際博覧会（大阪・関西万博）に参加し、日本の世界自然遺産の国際的な発信及び評価を高めていくことを目的として、「世界自然遺産5地域会議」の円滑な運営を図り、来るべき大阪・関西万博に向けて準備を進めた。

1) 万博参加実施計画案の作成

5地域会議として可能な事業や各会員の役割分担について検討・準備を進めるため、幹事会やコアメンバー会議、作業部会を設置し、具体的な内容や方法等の検討・調整を進めた。

2) 参加プログラムの立案・メッセージ原案の検討

日程や会場等の参加の枠組みを確定させながら、プログラムについて検討し、参加メンバーや地域の想定、招聘講師等への依頼を進めた。また、これまで調査・整理してきた世界自然遺産5地域の特性を踏まえ、有識者による環境文化研究会でメッセージ原案を検討し作成した。

3) 第3回世界自然遺産5地域会議の開催

令和6年11月19日、会員（5地域市町村の各首長及び2公益財団理事長）、関係行政機関等の参集により、大阪・関西万博への参加が決定した2つの催事（①5月6日テーマウィーク催事、②6月5日EXP0ホールでの一般催事）の参加計画を主要テーマとした第3回世界自然遺産5地域会議を開催した。

2 中核施設管理運営事業

(1) 中核施設管理運営

屋久島環境文化村中核施設である屋久島環境文化村センター及び屋久島環境文化研修センターの管理運営業務を県から受託（指定管理者）し、その適切な管理を行うとともに、経費節減による効率的な運営及び施設設備の補修等の維持管理に努めた。また、両施設の利用者増を図るための各種利用促進策を実施した。

① 村センター管理運営
入館者

区分	令和4年度	令和5年度	令和6年度	
				対前年度比
入館者数	42,417人	46,136人	49,261人	106.77%
うち有料観覧者数	7,961人	9,561人	10,971人	114.75%

貸出施設

区分	令和4年度		令和5年度		令和6年度	
	利用回数	延べ日数	利用回数	延べ日数	利用回数	延べ日数
レクチャー室	63回	91日	75回	77日	69回	76日
交流ホール	10回	249日	6回	153日	3回	54日
大型映像ホール	5回	5日	7回	8日	4回	5日

ア 施設利用促進策

施設利用促進策については、以下のとおり実施（予定を含む。）している。

- (ア) 町内宿泊施設等への案内リーフレットの配布・宿泊者への割引制度の実施
- (イ) 鹿児島港南ふ頭や高速船ターミナル、宮之浦港、安房港、町内宿泊施設等へのポスター配布、掲示
- (ウ) 宮之浦港の高速船及びフェリー乗り場における到着時の定期的な誘客活動
- (エ) 県内外の旅行代理店等へ来館の働きかけ
- (オ) 島内外のイベントにおける財団PR
- (カ) 7月に開館記念イベント「むらせんまつり」を開催。無料の映画上映会を開催予定
- (キ) 「やくしまアプリ」を活用した広報・活動
- (ク) 展示機器を更新して展示内容の充実を図る。

イ 交流ホール展示

開催日	内容	備考
令和6年7月5日（金） ～7月19日（金）	絵手紙展	
令和6年11月22日（金） ～12月5日（木）	小中学生作文の展示（屋久島レクリエーションの森保護管理協議会）	
令和6年12月6日（金） ～12月25日（水）	絵画コンクール受賞作品展示（環境省）	
令和7年2月13日（木） ～3月4日（火）	Ansel Adams氏写真展（THE NORTH FACE） 「Ansel Adams Photo Exhibition - Timeless Light -」	

ウ 映画上映会

施設利用促進と島民の福祉の向上を目的として映画上映会を実施した。

開催日	映画名	来場者数
令和7年3月15日（土）	怪盗グルーのミニオン超変身	230人

② 研修センター管理運営

利用者

区分	令和4年度	令和5年度	令和6年度	
				対前年度比
利用者数	5,632人	6,725人	4,686人	69.7%

貸出施設

区分	令和4年度		令和5年度		令和6年度	
	利用回数	延べ日数	利用回数	延べ日数	利用回数	延べ日数
レクチャー室	13回	13日	15回	15日	8回	8日
視聴覚室	1回	1日	4回	4日	0回	0日

ア 施設利用促進策

(ア) 例年、県内及び県外のスーパーサイエンスハイスクール（SSH）及び県内小中学校等を訪問し、研修センターの環境学習プログラムを紹介して施設利用促進を図った。

(イ) 6月にオープンデーを実施した。

(ウ) 隣接する屋久島世界遺産センター及び屋久杉自然館と連携したイベントの開催等により施設の知名度向上及び利用促進を図った。

③ 財団ホームページ等の管理運用と情報発信

財団ホームページ及び「やくしまアプリ」の適正な管理運用を行うとともに、SNSの活用により、日々新しい屋久島や財団の情報発信に努めた。

④ 教育機関との連携

町教委から研修課職員3人が「ESDアドバイザー」に委嘱され、「屋久島型ESD」の推進やSDGsの普及のために町内小中学校の職員研修や授業に招へいされ講義等による環境学習を実施した。

【収益事業会計】

書籍物品等販売事業

財団の収益を確保し、公益目的事業を推進するため、屋久島環境文化財団書籍とオリジナルグッズ（マスキングテープ、キャラクターシール、里に特化したポストカード、キャラクターのスタンプ入りエコバッグ、フェアトレードコットンを使用したポーチ）、オリジナルデザインのでぬぐい、屋久島WAONカード、屋久島関連書籍とグッズ、屋久島の植物（苔玉等）の販売を行った。

【法人会計】

管理費

本部管理費

① 本部管理費

ア 理事会・評議員会

理事会、評議員会を開催し、財団の諸課題等について協議した。

イ 管理運営

財団の効率的な管理運営に努めるとともに、屋久島町内等で企業訪問を行い、賛助企業への加入、協力を呼びかけた。

② 職員スキルアップ事業

各種セミナー、学会、講習会、インタープリターズキャンプ等の参加や調査・研究を支援し、職員のスキルアップを図った。